

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

ちょうど1年前のご挨拶において「耐雪梅花麗」という当時の心境を吐露いたしました。新型コロナウイルス感染症の猛威は衰えるばかりか夏に向かってピークを迎えるように感染が拡大していきました。医療体制が逼迫するなか、延期されていた東京オリンピックが無観客で開催され、日本選手団は過去最多のメダル獲得となりました。しかしながら私の記憶の中では、海の向こうのメジャーリーグベースボールの歴史を塗り替えた「リアル二刀流」大谷翔平選手の活躍のほうに鮮明に残りました。これ以上の成績はあげられないであろうと思いましたが、彼の口からは昨年の成績が最低ラインと思っているとの仰天発言がありその限りない可能性に期待が膨らみました。感染のほうはワクチン接種が進むにつれて徐々に収束に向かっていきましたが、年末に近くなってから新種のオミクロン株が海外から入り込み、再び感染拡大の兆候が見られてきました。この2年間世界中のどの国よりも個々の感染対策が十分できていると自負できる私たち日本人ですが、更なる我慢を強いられると思うと憤りが収まりません。できるだけ早く3度目のワクチン接種が行われ、重症化が抑えられることにより医療の逼迫が避けられるよう願うばかりです。患者さんやご家族の皆さんには外来受診時の健康チェックや面会の制限などご迷惑をおかけしておりますが、院内感染の予防のため引き続きご協力いただければ幸いです。



令和4年 元旦

リハビリテーションセンター熊本回生会病院

理事長・院長 大橋 浩太郎